

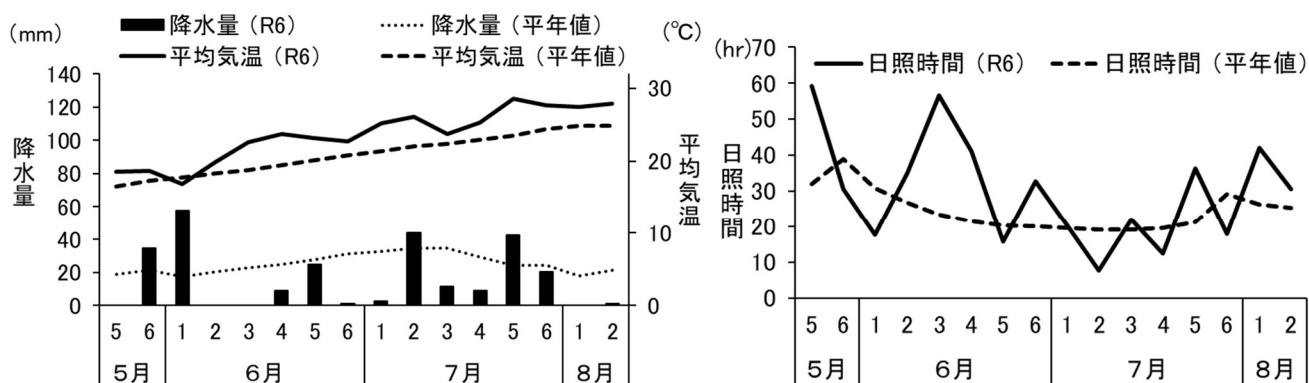
仙台大豆作情報

令和6年度第3号
令和6年8月15日発行
仙台農業改良普及センター
TEL 022-275-8410

★栽培管理のポイント★

生育ステージを確認し、病害虫防除を適期に実施しましょう。

1 気象経過



- ・6月中旬以降の平均気温は、平年より高く推移しました。
- ・6月の降水量は平年より少なかったものの、7月は雨の多い日が続きました。日照時間も平年より比較的多くなっています。

2 生育調査ほの生育状況（8月9日調査）

品種 (地区)	調査年	播種日	主茎長 (cm)	主茎節数 (節/本)	分枝数 (本/本)	開花期
タンレイ (仙台市宮城野区鶴ヶ谷)	R5	6月8日	58.8	13.3	3.0	7月29日
	R6	6月16日	40.6	10.7	0.3	8月2日
	平年	6月9日	62.3	13.4	2.7	7月30日
ミヤギシロメ (仙台市若林区荒井)	R5	6月20日	66.2	15.5	3.8	8月7日
	R6	6月12日	77.9	15.2	3.7	8月5日
	平年	6月10日	63.9	14.2	3.7	8月5日

※「開花期」とは、初めて開花した株が全体の40～50%に達した日

※「タンレイ」には平年値がありません。

- タンレイの播種日は平年よりも遅かったため、生育量はやや少ない。
- ミヤギシロメは、茎長が平年より長く、やや蔓化傾向である。
- 8月上旬から開花期に入っている。

3 今後の栽培管理

(1) 病害虫防除

- ◎本年は、播種後の高温により生育は進んでおり、開花の早いほ場もあります。開花や莢の状況等生育ステージをよく確認して、適期に防除を実施しましょう。

【病害虫防除体系】

○開花期～莢伸長初期 : 紫斑病、ダイズサヤタマバエ、オオタバコガ

○子実肥大初期～子実肥大中期 : 紫斑病、カメムシ類、マメシクイガ
フタスジヒメハムシ

①紫斑病

- ・開花期の20～40日後に1～2回薬剤散布を実施しましょう。特にタンレイは紫斑病抵抗性が弱いので、必ず2回防除を実施しましょう。
- ・紫斑病は害虫との同時防除が可能です。今年も高温が続くことが予想されるため、大豆の生育ステージをよく確認し、適期に防除を実施しましょう。
- ・管内でもアゾキシストロビン剤（アミスター20フロアブル）の耐性菌発生が確認されています。同剤で効果が低下しているほ場では、他の系統剤（プランダム乳剤25、ニマイバー水和剤、トライフロアブル等）の使用を検討しましょう。また、効果の低下がみられないほ場でも、同一系統剤の連用は避け、ローテーション散布を行いましょう。

②吸実性カメムシ類

- ・病害虫防除所の発生予察では、吸実性カメムシ類の発生量がやや多いとされています。
- ・子実を吸汁加害するカメムシ類は、若莢が着き始める頃から莢が黄熟する頃までの莢内の子実を加害します。
- ・開花期以降に発生が見られるほ場では、**着莢期から子実肥大中期の間に2回薬剤を散布**します。
- ・越冬地（雑草地、山林等）付近では発生が多くなる恐れがあるので注意しましょう。



成虫（ホソヘリカメムシ）

③マメシクイガ

- ・莢に侵入した幼虫は子実の縫合線に沿って食害するため、商品価値を著しく低下させます。
- ・成虫の発生盛期は、概ね8月第6半旬～9月第1半旬と毎年ほぼ同じです。8月下旬とその7～10日後にかけて1～2回防除しましょう。
- ・大豆作付4年目以降に被害が多いので、**連作年数が長いほ場や前年の発生が多かったほ場では本種に対して効果の高い剤（グレーシア乳剤、プレバソンフロアブル5等）を選択**しましょう。



幼虫

④フタスジヒメハムシ

- ・成虫が若莢を食害し、そこからカビが侵入して黒斑粒（子実の表面に黒い点）や腐敗粒（白いカビで覆われる）となります。
- ・フタスジヒメハムシによる食害を確認したほ場があります。第2世代成虫が発生する子実肥大期（8月下旬～9月上旬）に防除しましょう。



成虫

⑤ジャガイモヒゲナガアブラムシ

- ・吸汁されると葉に黄色い点々の吸汁痕が見られ、早期落葉を引き起こして収量や品質に影響を及ぼします。
- ・8月下旬から9月上旬に密度がピークに達するので、**多発した場合は防除**を実施しましょう。
- ・葉裏に寄生しているので、薬液が葉裏によくかかるように散布しましょう。



成虫（無翅虫）と食害痕

⑥タバコガ類（オオタバコガ、ツメクサガ）

- ・近年、県内のダイズほ場において、タバコガ類の幼虫が突発的に多発し、葉や莢を食害する被害が発生しています。今年度もオオタバコガまたはツメクサガによる食害が確認されたほ場がありましたので、注意が必要です。
- ・中齢幼虫期以降は莢に移動して加害することから、被害が大きくなる傾向があります。**8月以降、発生を確認した場合は速やかに防除を実施しましょう。**オオタバコガとツメクサガが混発した場合は、フェニックスフロアブルで同時防除が可能です。



中齢幼虫

⑦ダイズサヤタマバエ

- ・被害莢は一部が小さくなって虫こぶとなり、子実、莢とも生長が停止して極めて小さい莢あるいは奇形莢となるものが多くなります。また、開花直後の若い莢が被害を受けると、落夾することもあります。
- ・**開花後期から莢伸長初期に1～2回薬剤を散布しましょう。**

※記載した農薬は令和6年8月7日現在のものです。使用する際は農薬ラベルで登録内容を確認してください。

(2) 高温・乾燥対策

<各生育ステージの乾燥による影響>

- ・花芽分化～開花始期：花数の減少、落花・落夾の増加
- ・開花終期：落夾・不稔夾の増加
- ・開花終期以降：百粒重の低下（減収の要因）

○晴天が続くような場合には、畝間かん水で水分を供給するか、開花前から暗渠の水こうを閉じて水分保持をする等の対策を実施しましょう。

(3) 雑草防除

コンバイン収穫では、成熟期に雑草が残っていると汚粒の原因となり、手取り除草が必要となります。このため、必要に応じて茎葉処理除草剤の使用や早めの手取り除草を検討しましょう。

4 東北地方の向こう1か月の天候の見通し（8月8日仙台管区气象台発表）

<予報のポイント>

- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。
- ・特に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

■宮城県農薬危害防止運動実施中（令和6年6月1日から8月31日まで）

宮城県では、6月から8月にかけて農作物等の病害虫が発生しやすく、農薬を使用する機会が最も多くなる時期です。農薬安全対策の不備や不注意等による事故が発生しやすくなるため、農薬使用による危害防止と環境に配慮した適正な農薬の使用を徹底しましょう。

- ・ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認しましょう。
- ・散布後には農薬の使用履歴を記帳しましょう。

■農業機械の事故防止対策・被害軽減対策

- ・ほ場周辺の危険箇所の確認、危険回避行動の実践 ・危険箇所の改善
- ・シートベルトとヘルメットの着用 ・安全フレーム付きトラクターの利用

■熱中症対策

- ・こまめな休憩と水分補給 ・高温時の屋外での作業は極力避ける
- ・複数名で作業を行う ・身体を冷やす工夫を